

呉自社商品開発協議会



達は、自社商品の開発から事業化まで異業種交流で夢を実現する企業集団です  
Kure Innovation Team 21st century

福祉 Gr 通信

黒田が帰ってくる！ 巨額のお断りをして・・・  
7年前広島を出るとき約束したことを実行してくれるという  
今年は暗い出来事が多く 広島土砂災害も記憶に新しいことだ  
そんな中、明るい来年を彷彿させてくれる黒田の古巣復帰！  
みんなで見届けよう24年ぶりの優勝を！

医療・福祉環境・システム開発Grの活動

医療・福祉環境・システム開発グループ 2015年は 地域に貢献できますように！



2014/12/10 広ステーションホテルで  
グループ会議の開催に合わせて  
濱田コーディネーターの退職の  
慰労会を致しました。

医療・福祉環境システムGrから13名  
グループ以外から  
二井矢さん 林さん 石田さんも  
出席して頂きました。

濱田コーディネーターからも  
呉産業振興センターに在籍されてからの  
話など伺いました。

また全員が一言づつ 思い出話をし  
ながら 濱田コーディネーターの退職を  
惜しむ 名残惜しく時を重ねていました。



医療・福祉環境システム開発Gr の 会議内容

- \* 従来の研究テーマについては 引き続き継続して行く。
- \* 介護現場での体験について、在宅利用の視点からの介護用品開発(開発マトリクス表示検討) 27年2月頃に障害疑似体験会を、医療・福祉Grで行う 体験を元に介護用品の開発 商品の検討をする。
- \* 開発マトリクス表示検討 (利用者分析・場所・時間・役割・行動分析・・・等)
- \* 福祉通信の記事について、来月より 記事の一部を順番に作成し 藤原に提出する、その際3000円の広告枠最低1作成しGrの会費とし支払う。
- \* 次回の会議には 各自提案事項をまとめ 発表する。



藤原工業株式会社

にごり酒 製造装置

(もろみをスクリーンで分離する装置)

にごり酒が出たところで  
異物を目視でチェック  
バキュームで除去する。  
1000ℓ/hr 処理が可能

呉における高品位介護のためのものづくり連携

Cooperation of Craftsmanship for High-grade Care in Kure City

呉高専 ○岩本英久, くれ産業振興センター 濱田高義, 藤原工業株式会社 藤原吉光,  
呉自社商品開発推進研究会 山路恵司, 呉高専 繁村龍彦

Hidehisa IWAMOTO, Takayoshi HAMADA, Yoshimitu FUJIHARA,  
Keiji YAMAJI and Tatumiko SHIGEMURA

1 緒言

広島県の呉地域では、地元企業が自社で商品を開発するために、産学官連携活動を行う組織として呉自社商品開発推進研究会を平成12年に設立している。一方、現在の呉市は、人口15万人以上の都市の中で高齢者の比率が日本一であり、高齢単身世帯や高齢夫婦が増えている。家族による在宅介護や老々介護などの状況の中、介護者の負担が深刻な課題として認識されている。介護者の負担を軽減し、要介護者のQOLを向上させるためには、環境にやさしい医療・福祉・健康・美容に関する訪問サービスとそれを支援する機器を考案しなければならないと考えている。

そこで本研究会の中に、「医療・福祉環境・システム開発グループ」が発足され、現在までもものづくりで福祉現場や医療現場を支援する活動を実践している。本報告では、本研究会や本グループの設立経緯や構成、現在の活動状況を紹介し、高品位介護のためのものづくり支援について考察する。

2 産学官連携組織の概要

2.1 呉自社商品開発推進研究会 (KIT21)

(1) 経緯: 本研究会は財団法人くれ産業振興センターの支援により、平成12年12月13日に設立された。設立目的は呉市内の企業が、下請けではなく自社で商品を開発する技術とポテンシャルを高めることである。参加企業が相互に情報や技術を融合させ、参加企業の活性化と発展を図るとともに、地域社会に貢献することである。意欲的な企業が、相互の技術や情報を交換するとともに、産学官の連携を推進させ、自社商品の開発を促進する連携組織である。平成23年度の会員数は109社(個人を含む)であり、会長は山路氏(共同執筆)である<sup>1)</sup>。  
(2) 活動内容: 自社で商品を開発するために、専門家を招聘して研究会を開催し、異業種の方々と意見交換する「くるまざ交流会」(図1)や、会員企業が活性化・発展するために、先進的な取組を行っている企業を訪問する「先進地視察」、商品開発の足がかりを得るために元気な会員企業を訪問する「企業訪問」を行っている。また、地域社会への貢献として、呉地域がものづくりの街として今後も発展し、ものづくりに興味を持ってもらう土壌

を育むために、女性や一般の市民、子供たちに向けて「みんなの夢アイデアコンテスト」を開催している。

(3) グループ活動: 現在までに「環境機器事業グループ」、「IT(情報技術)研究グループ」、「セキュリティ機器開発グループ」など23のワーキング・グループが設置され、平成23年度は「新規事業開拓グループ」、「ケイタイ・ビジネス事業化グループ」、「カキ生産グループ」、「医療・福祉環境・システム開発グループ」など6つのワーキンググループが活動している。

これらのグループ活動により、水とオゾン霧の形で融合させて脱臭性能を飛躍的に向上させたオゾン脱臭装置や、グループ・団体の運営に必要な情報の周知・調整・合意を携帯電話のメール機能によって効率よく行うソフトであるKAVOSなどを商品化している。



Fig.1 Kurumaza exchange meeting in September 2012

2.2 医療・福祉環境・システム開発グループ

(1) 経緯: 本グループは平成21年12月に財団法人くれ産業振興センターの濱田氏(共同執筆)が企画し、2年間の準備期間を経て平成23年4月に設立された<sup>2)</sup>。グループリーダーは藤原工業株式会社の藤原氏(共同執筆)で、メンバーは現在17名であり、ものづくり企業だけでなく、歯科医、美容事業者、介護事業者やデザイナーなど多様な人材で構成されている。

(2) 活動内容: 平成23年度は毎月第3火曜日の午後、平成24年度は毎月第2水曜日に、くれ産業振興センターや参加メンバーの事業所で集まっている。会議では医療・福祉現場のニーズに応えるアイデアを検討し、

アイデアに基づいた試作品を製作し、その試作品について議論している。また、参加メンバーの中で商品化に成功した企業(図2)を視察し、成功のヒントやノウハウを共有している。

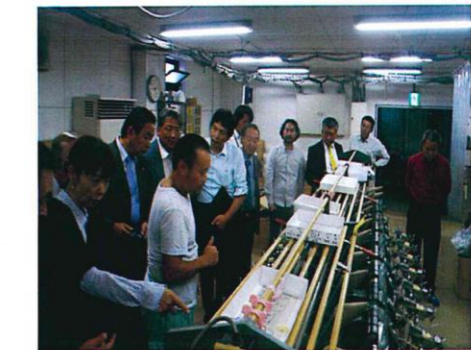


Fig.2 Visitation to the successful enterprise (Corporation Pearl Star in Higashiroshima city)

3 開発例

3.1 要介護者用上下可能テレビスタンド

ベッドに寝たままでテレビを楽しむことができるように、図3に示すようなテレビスタンドを開発する。搭載できるテレビの重量は10kg程度で、サイズは17インチであり、リモコンで上下にスライドさせることができる。テレビの可動域は床から600mm以上1800mm以下であり、テレビ画面の傾斜は-5~15°まで調整可能である。



Fig.3 Slide television stand

3.2 訪問歯科治療用研磨装置の開発

在宅介護を受けている要介護者の歯科治療を行うため

には、携帯性を有する歯科治療機器セットが必要である。そこで、自宅でも診療所と同等の処置ができるように、図4に示すような訪問歯科治療用研磨装置を開発した。この機器は、1つのコンプレッサーで、唾液などの吸引と研磨機を回転させるための加圧、研磨後に飛散する歯や金属の粉を集塵する機能を有している。



Fig.4 Grinding equipment for visitation dentistry

3.3 訪問美容のための機器開発

女性の要介護者も美容室と同等のサービスを受けたいというニーズがある。そこで、自宅で美容室で提供されるカットと洗髪および毛染めができるような、持ち運び可能な美容設備と機器を開発した。このサービスにより、女性の要介護者は自宅で毛染めなどが可能となり、美しさを実感することで、要介護者だけでなく介護者も笑顔を取り戻すことができる。

4 結言

本研究では、ものづくりで在宅介護を支援するために福祉や医療現場のニーズを抽出し、多様なノウハウを有する事業者と意見交換を行いながら、商品とサービスの企画・開発を行っている現状を報告した。要介護者のQOLを高めるためには高品位な介護を目指す必要があり、今後も産学官連携を深化させ、より多くの商品とサービスを開発し、介護現場を支援していきたいと考えている。

参考文献

- 1) 呉自社商品開発推進研究会, 平成24年総会資料, p2, 2012.
- 2) 呉自社商品開発推進研究会, 平成24年総会別冊資料, pp23-27, 2012.